

平成 28 年度

病虫害発生予察特殊報 第 1 号

平成 28 年 9 月 30 日
茨城県病虫害防除所
TEL : 029-227-2445

トビイロシワアリの発生について

害虫名：トビイロシワアリ
学名：*Tetramorium tsushimae* Emery
発生作物：ナス

1. 発生確認の経過及び県外での発生状況

- (1) 平成 28 年 6 月、県北地域の露地ナス圃場(1 圃場)において、草丈が伸びないなどの生育不良株が見られ、被害株の地際部に多数のアリと食害痕が確認された(写真 1~3)。アリを被害株から採集し、横浜植物防疫所に同定依頼した結果、トビイロシワアリであることが判明した。
- (2) 本種は、屋久島以北の日本各地に分布し、西南日本では最も普通に見られる種の一つである。福岡県、千葉県、広島県、香川県、佐賀県、長崎県、山口県、滋賀県および群馬県の 9 県で農作物への被害報告があり、キャベツ、ブロッコリー、ハクサイ、バレイショ、アスターおよびナスで被害が確認されている。

2. 形態の特徴

成虫(働きアリ)の体長は約 2.5mm(写真 4)。体色は褐色から黒褐色。頭部および胸部の表面は縦じわに覆われる。

3. 生態の特徴

雑食性で、昆虫、雑草の子実や発芽直後の芽、植物の甘露、樹液などを摂食する。

比較的乾燥した場所を好み、日当たりのよい裸地や草地などで、草の根元、石の下や腐朽木中に巣を作る。巣の規模は大きく、1つの巣に多数の女王を有する。

4. 被害の特徴

株元に土を盛り(写真 1)、地際の茎や根の表皮を食害し、くぼんだ食害痕を形成する(写真 2)。被害が進むと茎の外皮が帯状に削り取られたような食害痕(写真 3)となる。食害を激しく受けた株は、萎凋する。

5. 防除対策

現時点で、ナスおよびその他作物に登録のある農薬はない。深耕，圃場周辺の除草や灌水による巣の破壊など，物理的・耕種的防除に努めるとともに，灌水等で作物の活着及び生育を促進して被害軽減を図る。



写真1 ナス地際部にできた営巣による土の堆積



写真2 ナス地際部の食害痕



写真3 ナス側枝の食害痕



写真4 トビイロシワアリ成虫（働きアリ）